

新たにA中学校（仮称）を現在の佐屋中学校の場所に配置する

<立田地区検討協議会内での対案>

① 佐屋中学校と立田中学校を統合し、現在の両中学校の中間地点に配置 （津島自動車学校東側農地辺りが該当）

※検討協議会で発案…不採択

【利点】

- ・現立田中学区と現佐屋中学区の最遠地でも6km未満の通学（福原地区は6km超）
- ・スクールバスが不要
- ・立田地区の児童が全員同じ中学校に通うことができる。

【課題】

- ・佐屋地区検討協議会で検討が必要
- ・用地取得が必要となり、実現可能性と所要期間が不明確
- ・当該用地だけでなく周辺農地や周辺住民の皆様の承認が必要
- ・造成、道路水路の付替え、上下水、運動場や体育館などゼロからの整備が必要
- ・これまで農地で受けていた雨水排水機能や、学校行事で必要となる大型車の通行機能を確保する必要

・市江小学校区在住生徒の通学時間・距離が大きくなる

② 佐屋中学校を2つに分け、立田中学校と永和中学校の位置に2校配置

【利点】

- ・愛西市南部の生徒のほとんどが6km未満の通学（福原地区は6km超）
- ・スクールバスが不要

【課題】

- ・佐屋地区検討協議会で検討が必要
- ・市の最上位計画である愛西市総合計画と不整合
- ・適正規模の佐屋中学校を2つに分けることに校区市民の理解が得られるか。
- ・2校の整備にかかる費用が必要
- ・将来、適正規模の観点から南部の学校を1校とする場合、どちらの学校に配置しても通学距離が6kmを大きく超える地域ができる。
- ・立田南部小学校と立田北部小学校の統合案を見直す必要
- ・佐屋中学校を2つに分ける利点が少ない。

③ 立田中学校区を2つに分け、佐屋中学校と佐織西中学校にそれぞれ統合

③-1 小学校区分（立北小区は佐織西中へ、立南小区は佐屋中へ）

【利点】

- ・（小学校の統合を考慮しなければ）友達と別れることなく同じ中学校へ進学
- ・多くの地域が通学距離6kmの範囲

【課題】

- ・(小学校が統合されれば)進学する中学校が友達と分断される可能性
- ・立田北部小学区の南部(石田町、宮地町、後江町)は佐屋中のほうが近い。
- ・立田北部小学区の北部で草平小学校への進学が増え、児童数に影響

③-2 消防団管轄区分(早尾、葛木、戸倉、新右エ門新田、下一色、四会は佐織西中学校へ、他町は佐屋中学校へ)

【利点】

- ・ほとんどの地域で最も近い中学校へ進学できる。
- ・消防団配置と地域防災の拠点が一致し、地域全体の防災機能の連携と向上が期待

【課題】

- ・進学する中学校が友達と分断される可能性
- ・立田北部小学区の北部で草平小学校への進学が増え、児童数に影響

④ 立田中学校を小規模校のまま存続

【利点】

- ・今の子どもたちだけでなく、孫、その子供と立田地区に戻ってこられるように。

【課題】

- ・小規模中学校に見られる課題の解決が困難

<立田地区保護者アンケートの対案(地区検討協議会対案を除く)>

① 立田南部及び北部小学校と、立田中学校を統合し、小中一貫校を立田中学校に配置

※検討協議会で、「小中一貫校は、それぞれに検討するのではなく、市全体で検討すべき」との発言

【利点】

- ・立田地区に小学校と中学校を残すことができる。
- ・教員数が増え、独自の学校運営が可能
- ・中学生の通学はこれまでと変わらず、小学生の通学だけ検討すればよい。
- ・中1ギャップが解消されやすい。

【課題】

- ・立田地区検討協議会で未検討
- ・中学校の過小規模化が見込まれることは変わらないため、効果的な学びの展開の制限や生徒の社会的自立を促す機会の減少が懸念
- ・全学年1学級になると、9年間同じ環境で過ごすため、友人関係などが途中でこじれた際にリセットしにくい。
- ・小学校でのリーダーシップ、自信が身に付きにくい。
- ・転入や転校の際に、適応や対応が難しくなる可能性がある。
- ・小中一貫校を整備し、耐用年数経過を待たずに過小規模化した場合の対応